

2024年度 実施概要

大分県は恵まれた海洋環境であるにも関わらず、その豊かさと抱える問題において、県民の関心度が低いことは大きな課題である。事業1年目の本年度は、大分の海にもっと関心を持って貰おうと、「海のそなえウィークin大分」「海の自由研究特集」「大分の魚を考えるウィーク」の3つの柱をテーマとして取り組み、海で遊ぶ際のそなえの重要性や大分の海の環境や生態系について子供たちに学んで貰う場などを提供することができた。OBSと連携してテレビ番組で露出したほか、イベントでのブース展開、出前授業など様々な形で、県民に海の課題に向き合ってもらう接点をつくりだすことができた。

海のそなえウィークin大分



水難事故を減らす為にはくそなえ>が重要とのことで、海難事故予防の啓発特集、ミニコーナー、CMなどを展開。特集では、日本ライフセービング協会の方に出演して頂き、水難事故の傾向や防ぐ為に特に気を付けるポイントなどをレクチャーして貰った。7/27には大分県水難救済会（中津市）と連携して小学生向けのそなえ出前授業を実施。救命学習や着衣泳法体験を行った。訓練を受けた子供たちからは、ライフジャケットの効果などに驚きの声があがっていた。

海の自由研究特集



小学生の自由研究の題材となるような大分の海洋環境や生態系について映像化し、OBSテレビ「かぼすタイム」で特集を放送。さらに県内最大の夏祭り「大分七夕祭り」の会場にて、海について学べる特設ブースを設置。海の生き物とふれあえるタッチプール体験やみんなで作る大分の海のジオラマ制作などを行った。OBSホームページで自由研究の募集を行い、優秀賞に選ばれた小学生には、水族館「うみたまご」のバッグヤードツアーに招待する。

大分の魚を考えるウィーク



県内各エリアが誇る魚種とその現状について考えるウィークとして、県民に大分の海を自分事として捉えてもらう機会を提供した。海と食の課題に向き合う〈佐伯ウラオモテアクト〉の活動に密着し、私たちが恩恵を受ける海の恵みの再確認と同時に、私たちの海に何が起きているのか番組を通して視聴者の皆さんに考える機会を提供した。大分の代表的な魚の特徴や現状、料理方法なども紹介。最後に全国的にも貴重な干潟が残る中津干潟の果たす役割やそこに存在する生き物たちを取り上げた。

【海の取材動画】

県内想定視聴者44,280人に向け海と日本人に関する意識調査、海のそなえ出前授業など計10本を年度内に放送済。



【プロジェクト訴求動画】

「海ごみゼロウィーク」、「灯台ウィーク」、「海のごちそうウィーク」の3つのプロジェクト訴求動画各15秒を計237本放送。



これまでの課題と今後の展望

課題 1

海と日本プロジェクトin大分県事務局として初年度となり、運営体制の構築時間を要し、メンバー内で事業理解の格差が生じた。

課題 2

地域のステークホルダーの巻き込みが不完全だった。

課題 3

大分市は別府湾・豊後水道など豊かな漁場に面しており、「関アジ」などの全国的なブランド魚があるにもかかわらず、鮮魚の消費量は全国で21位。



多くの部署を巻き込む体制を構築し、定期的な意見交換や勉強会なども実施していく。



取材を通して県内関係者の巻き込みを強化するほか、県や県漁協との連携を強化していく。



魚を使った郷土料理の掘り起こしを行い、大分の食文化を見直す取り組みを実施する。